

昭和学報

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
03(3401)5118
編集発行人 山崎洋史

昭和女子大学生に必要なもの インタビューをしよう

ビジネスデザイン学科長 飛田史和

私のゼミでは、卒論を書き始める前にインタビューをするのを課している。なぜこのようなことをしているかという点、ほとんどの学生が、論文を書く際に必要な「論理的な事実、分析、主張を正確に記述する」ことにまったく慣れていないからだ。論文執筆において、問題の所在や仮説、先行研究の結果など、調べたことを正確に記述することは基本である。しかし、様々な文献・調査を読みこなし、書かれていることを的確に文章にできる学生は少ない。学生にその能力がないというわけではなく、そういう訓練・機会を与えられていないからだと思う。

学生は論文執筆に関して「コピー禁止」と堅く言われている。ところが丸写しはいけないと勘違いした学生は「コピー検出ソフト」に引っかからないように、正確に引用すべき箇所自分の感想を無理やり押し込んで、論

理性や一貫性が破たんし、しかし確かに「オリジナル」な文章をひねり出す。このようなコピーを禁止することによって生じる弊害を考慮すると、学生に対して「コピー禁止」をあまり強調するのは考え物だと思う。大学生レベルの文章構成において、教員が読んで違和感を抱かないような文脈に即した「コピー」は立派なものだ(あるいは)と私は考える。学生にインタビューを課すことを思い立った

きつかけは、東京大学教養学部立花隆ゼミで一九九六年から一九九八年にかけて実施された「二十歳のころ」というインタビュー集(立花隆、東京大学教養学部立花ゼミ著、二〇〇八年一月七日発行、ランダムハウス講談社文庫)である。この本は二十歳前後の立花ゼミ生が七〇名あまりの著名人あるいは無名の市民名対し、「自分が二十歳だったころ何をしていたか」を聞きだし、まとめられたものである。立花ゼミにならって、私のゼミ生には、自分が興味を持つ

た分野、尊敬する人物にものになる」と言う。ついでインタビュー結果をまとめてもらうことにしている。目的の第一は、先に挙げたインタビューした人の発言、意図を斟酌して過不足なく論理的に記述することであるが、実は(あまり学生にも説明していないが)より重要な第二の意図がある。それはこの本のなかで、繰り返して強調されていること、すなわち「相手に本気で語らせる技術を修得すること」である。立花ゼミ生の熱意と情熱によって、いかに多くの有力者に語って、後押ししてくれる、仕事をしてくれる「ことにつながる。就職でも、結婚でも同じである。「一流企業に入りたいたい」とか、「かっこいいイケメンが好きである」というふうなターゲットを定めることは重要である。しかしそのターゲットを獲得するために「一流企業全体でなく、その企業が何を求めているか」「かっこいい男性が何を求めているか」ではなく、その彼がどのような好みか」を全力で追及する姿勢が必要なのではないか。(ひだふみかず)



インタビューをしよう

- 今月の昭和学報は
昭和信金主催
TOKYO三ツ星パザールに参加……………(2)
人見杯スピーチコンテストで
本学学生がTOP3を独占……………(3)
クイーンズランド大学交流会……………(4)

女子学生のための 優良企業ランキング発表会を開催



平成二六年一月二五日(二〇〇名余りの学生が参加して)第三回の表記発表会が行われた。第二回は「ホワイト企業」という呼称に変えた。今回の対象は、食料品業、卸売業、輸送用機器業である。昨年(第一回)に続いて光葉キャリア塾の学生たちも独自のランキング結果を発表した。塾生の企業評価指標は、「チャレンジ指標」。「家事や育児などを大切にしながらキャリアアップを目指す女性」の視点から、従業員女性比率、資格取得支援制度、保育

手当・設備などを重視している。一方、女性文化研究所の専門家チームは、これまで同様、「就業継続・WLB指標」と「キャリア・フレキシブル女子指標」によって「女子学生にお勧めの優良企業」の3つのタイプを発表した。業種ごとに二つのグループのトップ企業を紹介すると、食料品業はサントリーホールディングス、卸売業は三菱商事、輸送用機器業は日産自動車で、一致した結果が得られた。「優良企業ランキング」の詳細は、女性文化研究所のホームページに掲載された報告書を参照してほしい。(キャリア支援部長 森ます美)

日・カリブ交流年/日・ジャマイカ外交関係樹立五〇周年記念シンポジウム Women can Change the World を開催



日本とジャマイカ外交関係樹立五〇周年および日本・カリブ交流年を記念する国際シンポジウムが、駐日ジャマイカ大使館、外務省、昭和女子大学地域連携センター共催で開催された。シャロン・フォルケスII アブラハムス ジャマイカ産業・投資・商業省國務大臣が基調講演を、パネリストとして、猪口邦子参議院議員(日・カリブ友好議員連盟元少子化担当大臣、弓削昭子法政大学教授(元UNDP駐日代表・総裁特別顧問)が参加し、本学の坂東眞理子学

長がパネリスト兼モデレーターとして進行。あっという間の二時間であった。シンポジウムはすべて英語で進められ、記録をはじめ、当日参加した学生からは、「英語だけの進行への不安もあったが、力強いメッセージや心に残る言葉をたくさん聞くことができ、充実した時間となった」との嬉しい声も届いた。西インド諸島大学と本学の交流の可能性も話題にのぼるなど、今後に期待したい。(地域連携センター長 志摩園子)

CID-UNESCO 主催 World Congress on Dance Research へ参加

一〇月二六日にCID-UNESCO主催のWorld Congress on Dance Research Congress on Dance Researchのポランティアに参加した。シエラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテルで開催された本イベントは、日本・アジア初の



国際規模のダンスの祭典である。プロのダンサーからダンスを教わることもできるワークショップや講義、パフォーマンスなどが行われた。各国の伝統的舞踊からクラシックバレエ、モダンダンスなど様々なダンスを楽しむことができる。ポランティアとして参加した私は、受付や講義のサポート、パフォーマンスや参加者の日英通訳などを行ったが、パフォーマンスの観賞や無料のネイルアートを楽しむこともできた。本学だけでなく、早稲田大学をはじめ他大学の学生や社会人の方々もポランティアで活躍しており、交流する機会も多く設けられるなど、充実した時間となった。今後このようなポランティアに積極的に参加したい。



昭信金庫が主催するTOKYO 2015星バザールに参加した。三回目となるこのイベントに、初めて昭和女子大学もサポート側として携わることとなった。両日にわたって、二名の学生と共に東北エリアで活動。東北復興支援の一環として現地の名品のPRを行った。南三陸や仙台からは豊富な海の幸が、福島県二本松からは和菓子、ワイン、はちみつが出品された。どのように宣伝すればお客様が立ち止まってくれるのか、購入してくれるのか、試行錯誤しながらPRを行った。接客を通じて、多くの地元出身のお客様がこのイベントを訪れていることがわかった。

昭信金庫が主催するTOKYO 2015星バザールに参加した。三回目となるこのイベントに、初めて昭和女子大学もサポート側として携わることとなった。両日にわたって、二名の学生と共に東北エリアで活動。東北復興支援の一環として現地の名品のPRを行った。南三陸や仙台からは豊富な海の幸が、福島県二本松からは和菓子、ワイン、はちみつが出品された。どのように宣伝すればお客様が立ち止まってくれるのか、購入してくれるのか、試行錯誤しながらPRを行った。接客を通じて、多くの地元出身のお客様がこのイベントを訪れていることがわかった。

「Sweets dream - setagaya」プロジェクト
一月四・五日に新宿西口広場でTOKYO 2015星バザールが行われた。同イベントは東京と東北の人気店が大集合し、名品を販売するもの。主催は、本学と産学連携協定を締結している昭信金庫である。



「Sweets dream - setagaya」プロジェクト
「Sweets dream - setagaya」でお世話になった。プロジェクトには、学部の枠を越え一九名の学生が参加している。イベントは大盛況で、亀屋の商品は生菓子を中心にあつという間に売れていった。出店した各店でもお客様と笑顔が交わされ、お客様が帰宅後商品を口にする際にも笑顔になるであろうことを想像すると、笑顔が笑顔をよく肌で感じる事ができた。今後は、「世田谷みやげ」への登録を目指し、活動していく予定である。
(日文 岩田万智子)

先生の研究室訪問 熱い思い

環境デザイン学科専任講師 橋 倫央先生



環境デザイン学科プロダクトデザインコースの橋倫央先生に、学生時代のエピソードや現在の活動についてお話を伺った。

まず進路についてお聞きすると、高校卒業後、漠然と就職を考えていたが、結局就職活動せずに卒業を迎えてしまったと意外なエピソードをお聞きした。そこで将来を再考し、美大進学を決意。予備校を経て、美大ではプロダクトデザインを学ばれた。一年生の頃に制作した木製の椅子を見せて下さった。その椅子はとても暖かみがあり、制作過程は、私たちと同じ年次で制作したとは思えない程

工夫されていて驚いた。二年次には、「Plus one percent」というグループを仲間と結成し、その活動に力を入れるようになった。グループを企画し、展示会などを企画し、プロダクトデザインから空間デザインまで全て制作して、作品を売り込む活動をされてきたそう。

「Bouncing」はねる生活展を開催。プロモーションビデオを見ると、テーマの「はねる動きが、ポジティブで幸せな展示で表現されていた。制作費は約百万円ほど高かったそうだが、入場は無料で、自分たちの活動を見

てもらう経験が利益だったと先生は話す。グループ解散後、木製椅子の課題を出された本学科の桃園靖子先生からの誘いで、現在に至るそう。

先生は制作に対する熱い思いを知り、そうした作り手の思いを表現するプロデュース方法を考えたいと思った。インタビューで得たものを糧として、大学での学びをより良いものにした。

「学報委員 今村うらら 名塩彩音」

文化講座

「スポーツの価値
ーアスリートと社会ー」山口 香氏 (11/12)



今回は元柔道選手でソウル五輪銅メダリストの山口香さんの講演を聞いた。プレーするアスリート、見守る観客、そして運営をはじめ、選手を支えるという観点から、それぞれの視点も含め、社会の中でアスリートの価値や役割について話して下さった。印象に残ったのは、ラグビーは人生の縮図であるということ。山口さんが自身からラグビーを観戦の際、ラグビーを学べると感じたそう。ラグビーはボールを横にパスしなければならぬ。また、タックルを避けるため、全員で協力してゴールを目指す。独走は成功につながらず、仲間との連携が必須であることが、社会そのものに通

えるスタッフそれぞれの視点も、社会の中でアスリートの価値や役割について話して下さった。印象に残ったのは、ラグビーは人生の縮図であるということ。山口さんが自身からラグビーを観戦の際、ラグビーを学べると感じたそう。ラグビーはボールを横にパスしなければならぬ。また、タックルを避けるため、全員で協力してゴールを目指す。独走は成功につながらず、仲間との連携が必須であることが、社会そのものに通

「学報委員 綾野瑠子」

基礎教育研究センター活動報告

TAを経験して

私がTAを希望した理由は、将来教職に就くときにTAの経験が役立つと考えたからだ。実際に



受講生に話し教えてみて、相手にわかりやすく説明することなどの教え方やコミュニケーションの取り方を見つめなおすことができた。教科を教える中で、自分自身の理解が不十分なところもあり、受講生と一緒に学ぶことで共に高め合うこともできた。また、普段の学生生活では他学科の学生とかわる機会は少ないので、授業の合間にどのようなことを学んでいるのかなどを話す時間は、私にとって良い刺激となっている。TAでは教えること以外にも多くの学ぶ

授業を受けて変わったこと

私は中学生の頃から英語が苦手で、勉強もしてこなかった。そして大学受験でも英語でつまずき、結局克服できなかった。しかし、昭和女子大学に入学してから留学したいと考えるようになり、本気で英語を勉強してみようという決意をした。基礎研の五回の授業を通して基礎的な英語力やTOEICの対策など、とても丁寧



な苦手意識が少しずつなくなっていくのが感じられた。また、TAの方は留学経験もあり、色々な話を聞くことができて良かった。これまで、何から始めて良いのか分からず英語から逃げてきたが、今ではもっと学びたいと思うようになった。これをきっかけにして、今後英語の勉強を続けていきたいと思う。
(日文一年 多田美香子)

人見杯スピーチコンテストで本学学生がTOP3を独占

人見賞 英コミ 伏見百世さん

近年、多くの注目を集めている女性の社会進出をテーマにスピーチをした。原稿作成やスピーチの際に心掛けたことは、スピーチを通して、自分が一番伝えたいメッセージを常に頭の中で具体的にイメージすること。本番



でもこのことを心掛けて、自分の想いを皆さんに聞いていただくという気持ちで臨んだため、落ち着いたスピーチをすることができた。原稿の推敲やスピーチの練習など、準備は長期間となったが、その過程も自分の考えを整理する良い機会となった。また、日ごろから尊敬する、FacebookのCOOとして活躍するSheryl Sandberg氏のインスピレーションを見聞きしたことも、非常に勉強になった。

学長賞 ビジネス小澤千輝さん

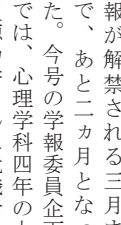


"Don't Go with the Flow"

(流れに身を任せるな)というテーマでスピーチを行った。周りにあわせて行動するのではなく、自分自身が勇氣を持って、あらゆるものに挑戦していこうという内容である。これは、海外に行った際に強く感じたことの一つで、実際の体験を織り交ぜながら、自ら行動していくには何が重要かということを中心に論じた。主体的な行動には、論理的な思考が欠かせないと思うが、それを踏まえ、積極的に海外へ行くことも重要だと考

学報企画 先輩に聴く!

二〇一六年度卒業予定者向けの採用・説明会情報



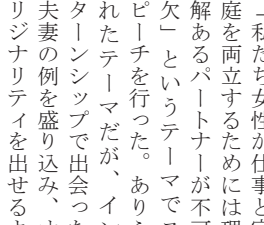
二〇一六年度卒業予定者向けの採用・説明会情報。今号の学報委員企画では、心理学科四年の迫徳乃香さんに就職活動について話をお聞きした。大迫さんは企業向けの求人広告代理店に営業の求人からたたくさんのアドバイスをいただいた町田さん(左)。

職として内定が決まっている。

営業職を選んだ理由をお聞きすると「はじめは営業に興味はなかった」と大迫さん。「三年の夏休みのインターンシップでメーカーの営業職を経験した。その際、たとえ電話で断られても諦めず、直接話す機会を設ける姿をみた。先方も交渉を重ねて良い人間関係を築くことが重要だと気づき、営業職に興味をもった」とこやかに話す。

希望職種に内定が決まり、スムーズな就職活動だったのかと思えば、その六月の中旬、最終選考

第三位 国際金高志緒梨さん



「私たち女性が仕事と家庭を両立するためには理解あるパートナーが必要」というテーマでスピーチを行った。

「私たち女性が仕事と家庭を両立するためには理解あるパートナーが必要」というテーマでスピーチを行った。ありふれたテーマだが、インタシンシップで出会った夫妻の例を盛り込み、オリジナルリレーを出せるようにした。また、より多くの方に共感して頂けるよう、内容はもちろん、表現にも力を入れた。例えば、皮肉っぽい日頃から、英語のラジオニュースやTED Talksを観るなど、英語を身につけるよう心がけており、そうしたことが表現力に結びついていたのではないと思う。

まで進んだ三つの企業の面接すべてに落ちて「持ち駒」がなくなってしまう。一本当に悲しかった。反省も大事だけど、動きださないといけない。落ちた行動を必死に起こしたら、二週間で内定をもらえた。人間本気を出せばできる。逆風の中で大事なことは、やはり基礎だということ。自己分析をきちんとすることで、自己PRも志望動機も見えてくる。就職活動は「運と縁」と言われるが、それもSPIや自己分析などの基礎があればこそ。やった分だけ、可能性は広がる。就活を乗り切るコツも

最後に、どのような社人を目指したいかと聞くと、「お客さまのことを考える人になりたい。仕事のオン・オフを超えてお客さまのことを考える人」。

そう語る大迫さんから、社人になる意欲が生き生きと伝わってきた。(学報委員 町田瑞貴)

choco talk "choco talk"は、学報委員によるミニコラム。身近なことから社会現象まで、様々なテーマでお届けします

「ダイエット」って.....。ダイエットという言葉を知らない人はいないだろうが、ダイエットの「本当の意味」を知っている人は少ないように思う。「diet」を辞書で調べて最初に書かれているのは、「日常的な食事」である。その語源は、古代ギリシア語の「生活様式」や「生き方」を意味する「diata」であり、「生活の中の普通の食事」がダイエットの本来の意味といえる。しかし今日、「ダイエット」がそうした意味で使われることはまずない。「ダイエット」=「痩せること」として日常的に使われている。あなたが今より健康的になりたいと考えるのであれば、「普通の食事」を心がけてほしい。バナナだけの朝食や炭水化物を抜いた食生活は、「普通の食事」ではなく、もちろん「ダイエット」でもないのだ。(学報委員 今野彩香)

オーストラリアの協定校 クイーンズランド大学との交流会

11/28



クイーンズランド大学には本学限定ハローキティの学生を招き、本学で交流会が行われた。キャンパスを案内した後、グループに分かれ、日本語と英語を使った言葉遊びゲームを行った。わからない単語を互いに教え合うことで自然と会話が弾み、さらに、優勝チームには本学限定ハローキティグッズ等がプレゼントされた。自分の英語が通じたの大きいに盛り上がった。自分という不安もあったが、杞憂に終わり、短時間ながらも充実した時間を過ごすことができた。勉強はもちろん重要だが、勉強以上にコミュニケーションをとり、その持ちが大事であり、その気持ちはなければ通じ合うこともできないと感じた。私のような英語専攻ではない学生でも、まず、国際交流の場に参加してみたい。

(健康 川野辺澤奈)

NTTドコモモバイル社会研究所 ケイタイ社会研究レポートコンテストで最優秀賞

一月一日に開催されたNTTドコモ・モバイル研究所主催「第五回ケイタイ社会研究レポートコンテスト」で私たちが最優秀賞を受賞した。このコンテストは毎年開催され、今年には全三チームが論文を提出。一次審査を通じた上位九チームによる最終審査が行われた。



私たちのテーマは「価値観とITリテラシーを意識したソーシャルメディアの使い分けの分析」で、同研究所から提供されたデータだけでなく、学内で独自に実施したアンケート調査

左から鹿川さん、日本文学部森田美樹さん、日本文学部森田美樹さん

(有効回答数二〇〇)のデータも分析した。その結果、三大SNS (Facebook, LINE, twitter) の使い分けは、それぞれの「公開性」についての個人的な評価に左右される傾向がみられた。しかし、評価はあくまでも個人の価値観によるものであり、ツールの使用にあたっては他者との価値観の違いを認識する必要がある。最終審査では、経済的・技術的な視点からの発表もあり、各チームの発表に刺激を受けた。その中から最優秀賞に選ばれたことは、光栄だと思う。

(日文 鹿川由莉香)

福祉「国際障害者デー」 世界のバリアフリー絵本展

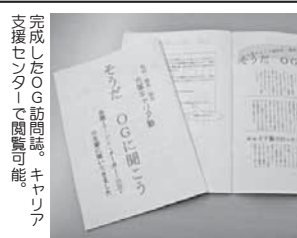


二月二日と三日、福祉社会学科では「国際障害者デー」イベントを生ホールで開催した。二月三日は、国連が定める「国際障害者デー」に関する理解を深めるページをめくりやすい形

に工夫したり、絵文字でストーリーを表したものがあふれていた。目でも聞けなくても楽しめる点も好評だった。子どもから大人まで延べ九二名の来場者が訪れ、実際に絵本を手にとり、障がい者施設と協力して運営できたことは、私たち学生の学びにも繋がった。

(学報委員 沖野広香)

光葉キャリア塾活動報告



今春、二〇名以上の新メンバーを迎えて今年度の活動が始まった。前期はOG訪問誌の作成を行った。光葉キャリア塾のメンバーが興味をもった業界のOGを探し、インタビューを行い、冊子を作成した。夏休み以降は女性文化研究所とともに「女子学生のための優良企業ラン

キング」の作成に取り組み、一月に発表を行った。「優良企業」の基準について議論し、指標を設定し分析した。希望する働き方によって「優良企業」は変わってくることを実感した。年四回のメンターカフェの企画・運営も担当し、多くの学生が集まり盛り上がった。将来の働き方を考え、情報を集めたり分析したりして発信することはとても難しいが、その活動を通して得られるものは大きい。今後も「学生から学生に向けて」を motto に活動の幅を広げていきたい。

(光葉キャリア塾 寺嶋歌穂)

第六六回 毎日書道展で三名入選



創作「花開運更新」(寸法 尺×六尺 日本文二年 多森友衣子)



臨書「温泉銘」(然而攀霞履霧仰其術者難尋) (寸法 尺×八尺 日本文三年 矢野由希子)



臨書「行書詩贊卷」(影娥在夢約桂華之流 露露天酒之餘香) (寸法 尺×八尺 日本文年 福島弥生)

今年度の毎日書道展は、七月九日より国立新美術館、東京都美術館をはじめとして二月七日まで全国で展示された。本学から次の三名の学生が入選した。

- 漢文II類 (U-13) 部門
 - 日本文四年 多森友衣子
 - 日本文三年 矢野由希子
 - 日本文二年 福島 弥生

国内最大の本書道展で、多森さんは三年連続の入選を果たし、本学初の快挙である。矢野さんは二年連続の入選。福島さんは初出品で初入選を果たし、次期書道部長としての活躍が期待される。三名の栄えある入選を讃えたい。その後の秋桜祭において、多森さんはミス・インターナショナル候補者の前で「舞」を、矢野さんは書道部の会場で巨大筆による「躍動」を披露し、好評を博した。書道部の一層の発展を期待したい。

行事予定

- 1月 6日 (火) 大学院2月期入学試験願書受付開始(～1/27)、図書館開館
- 1月 8日 (木) 授業開始
- 1月 9日 (金) 「卒業論文」提出日(10:00～16:00)
提出日時が異なる場合があるので、学科の指示に従うこと
ポストン成人式セレモニー
- 1月10日 (土) 第34回メンターカフェ「自己PRの戦略を練る!」(13:30)
- 1月13日 (火) 大学院修士論文提出日(16:00)
- 1月14日 (水) 図書館試験貸出開始(～2/3)、第4回学生会クラス学生総会(15:30)
- 1月15日 (木) 第45回メンターフェア (11:45)
- 1月16日 (金) センター試験準備 4限以降休講
- 1月17日 (土) 大学入試センター試験 (一日休講・学内入構不可)
- 1月18日 (日) 大学入試センター試験 (学内入構不可)
- 1月21日 (水) 第46回メンターフェア (11:45)
- 1月23日 (金) 学内合同企業説明会 (12:30) (平成27年3月卒業予定者対象)
- 1月24日 (土) A日程試験準備(13:00) (入試で使用する教室への立入禁止)
- 1月25日 (日) A日程試験(入試で使用する建物への入館不可)
- 1月28日 (水) 第3回全学対象TOEIC IPテスト(4・5限)